

水源地へ行って学んだこと

天理市立福住中学校三年

田中 愛莉

私が住む福住町では地域活性化を目標に、様々な活動を行っています。私の通う学校では、昨年、マス釣りプロジェクトが開催されました。学校のプールにマスを入れて、たくさんの人に福住へ釣りに来てもらうというプロジェクトです。私の班は、今は使われていない昔の水源地を復活させて、そこから水を汲み上げて学校のプールに引き込む役割でした。私はその役割を聞いたとき「簡単そうだな。」と思いました。蛇口をひねればきれいな水が出てくるのだから、水源地からも簡単に水を引き込めると思ったからです。でも、実際にやってみると、そんな簡単なことではありませんでした。

水源地へ行くには、三十分ほど森の中を歩き続けなければなりません。木が倒れて道を塞いでいたり、土はどろどろで歩きづ

らかったりして、水源地へ行くまでにへトへトになつてしまふほどでした。そして、水源地に到着すると、水源地のダムは土で埋まつていて、パイプは壊れており、何もかも想像とは全然違うものでした。そこで私たちは、ダムを作り直すところから始めました。貯まつている水の量が少なかつたので、まずは土を三十cmほど掘り、大きい石から小さい石まで様々なサイズの石を使って壁を作り、水が貯まるようにしました。ダムは完成しましたが、パイプが壊れかけていて水が流れなかつたため、パイプをつなげる作業も行いました。ダムを作り、パイプをつなげて水源地から水が流せるようになるまで、約一年もかかつたのです。

このように、水源地から水が流れてくるのには時間と労力が伴います。今までは気づかなかつたし、考えたこともなかつたのですが、この活性化プロジェクトを通して水のありがたさを知りました。そこでふと、水がなくな

つたらどうなってしまうのか、疑問に思いました。調べてみると、今世界で使われている水を節約せずに使い続けると、約六億年後には地球から水がなくなることを知りました。もしこの世界から水が消えてしまったら、すべての生き物が死んでしまいます。人は飲み物がないと、五日で死に至ります。他にも、水中に生息する生き物はもちろん、虫や微生物まで、生息地や大きさに関係なく、水と生き物はとても深く関わっているのです。

私たちだけではなく、この世界に生きるすべての生物に必要な不可欠な「水」はいつも近くにある身近な存在です。ですが、この身近な存在を得るためには、たくさんの苦労と時間が必要なことがわかり、有限であることを知りました。そんな「水」が当たり前前に手に入る今はとても貴重で、ぜいたくなことだと思います。当たり前前の存在としてこの世界を支える「水」への感謝を忘れずに、限りのある「水」を大切に使っていきませんか？